

はじめに

川崎市環境総合研究所は、2013年2月の統合・再編から今年で3年目となります。これまでの地域環境の改善と汚染の未然防止のための監視・調査・研究等の取組に加え、川崎の優れた環境技術による国際貢献の推進や優れた環境技術情報の収集・発信、「都市と産業の共生」を目指した研究の推進、市民団体や企業等と協働した環境学習等に取り組んでまいりました。

今回、発行いたします「川崎市環境総合研究所年報第3号」は、2014年度の当研究所の研究や国際貢献に関する取組等を取りまとめたものでございます。

2014年度は、地域環境の改善のため大気環境や水環境の状況を引き続き監視・調査、研究したことに加え、化学物質の環境リスク評価や未規制化学物質の環境実態調査等を行い、未解明の環境課題に資する研究等に継続的に取り組むことなどにより、市民によりよい環境を実感していただけるよう行政部門とも連携しながら環境施策を推進してまいりました。

また、公害克服の過程で蓄積された川崎の優れた環境技術や環境保全の経験を活かした国際貢献事業として、インドネシア共和国バンドン市及びマレーシア国ペナン州との都市間連携等を通じて、JCM(二国間クレジット制度)の枠組みを活用した低炭素都市形成支援事業を推進するとともに、姉妹都市である中国瀋陽市との間で環境省が実施する中国大気環境改善のための都市間連携事業に取り組みました。さらに、企業や大学等の研究機関と連携した共同研究事業を推進しました。

本市では、2016年3月の公表を目指して「新たな総合計画」の策定作業を進めており、当研究所も環境行政を科学的・技術的に支援する中核組織として市政の一翼を担うとともに、ライフサイエンス・環境分野における国際戦略拠点に立地する研究所として、国や企業、NPO等の多様な主体と連携・協働した研究・事業を推進し、市民にわかりやすく研究成果や環境に関する情報の提供等を行うなど、開かれた研究所としてさらなる取組をすすめてまいります。

本年報を御高覧いただきまして、御指導を賜れば幸いに存じます。

2015年12月

川崎市環境総合研究所

所長 横田 覚